

湖東普及だより

H26
春号

編集発行 滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課（発行責任者：田口稔幸）
〒522-0071 彦根市元町4番1号
TEL：0749-27-2228 FAX：0749-23-0821 E-mail：ga32@pref.shiga.lg.jp
ホームページアドレス：http://www.pref.shiga.lg.jp/hikone-pbo/nogyo/

更なる地域農業の発展を目指して！
湖東地域集落営農法人連絡協議会が発足！



連絡協議会設立総会（H26.1.25）



法人組織の情報交換会（H25.10.5）



集落営農法人表現地研修（H24.12.21）



法人化に向けた研修会（H24.10.20）

当課では、湖東地域農業センターやJA、市町と連携し、地域の担い手となる集落営農組織への栽培技術や組織運営、法人化などの支援を進めてきました。

その結果、湖東管内の集落営農法人数は28集落（平成26年1月末現在）となり、3月末までにさらに1集落営農組織が法人化される予定です。

去る1月25日（土）には、これら集落営農法人が会員となった「湖東地域集落営農法人連絡協議会（以下、協議会）」が設立され、今後協議会を中心とした情報交換や各法人の体質強化が期待されます。

つなげよう やさしい心の バトンパス（彦根市 はーとふるメッセージ2012入賞作品）

頑張ってます、新規就農者

森 治久さん(愛荘町沖)(58才)



森さんは、半導体の製造ライン管理の仕事をされた後、農大就農科で研修を積み、就農されました。

水稲とトマトのハウス栽培や露地野菜を組み合わせた複合経営を営んでおられます。森さんの経営の特徴は、①父の篤農家技術、有機物の発酵熱を利用した踏込温床による春野菜の育苗技術等の継承と農大で習得した近代技術（トマトの少量土壌培地耕）をうまく組合わせた農業経営、②県道に面した農舎での近隣住民を顧客とした新鮮野菜と万木かぶの漬物（八木菜漬）の直売、③できる限り一人ででき、大規模でなくても生活できる農業経営を目指した省力技術の導入です。これからもハウスの増設を計画されており、地産地消の野菜の生産・販売を拡大されていきます。

市川 健治さん(豊郷町吉田)(38才)

「イチゴは面白い」と語るのは豊郷町の市川健治さん。

結婚式場や食品メーカーのマーケティング部門で営業を得意としていた市川さんは、彦根で農業法人社長と出会ったことがきっかけとなり、儲かる農業を志されました。

就農に向けて研修をする間に、面積当たりの収益が大きいイチゴ栽培に目をつけ、平成23年から栽培を開始されました。

「イチゴ栽培は、ちょっとした管理の差で結果が出る」と、日々研究されています。イチゴだけでなく、地元のたまねぎを使ったドレッシングを開発して、地元を巻き込んだ活動も始めておられます。

お客さんの需要と生産のバランスを取るのが難しいのが悩みですが、得意とする企画や販売を基礎にしてイチゴの経営を大きくしていく事を当面の目標にされています。



西澤 革治さん(多賀町木曾)(39才)

西澤革治さんは、民間企業での勤務を経て、父・義雄さんの後継者として平成21年に就農されました。平成25年5月には、さらなる経営管理の合理化を目指し、合同会社銀翔（ぎんしょう）を設立されました。現在、水稲9haを基幹に、多賀町の特産品であるそば、にんじん等の複合経営を展開されています。

「量よりも高品質で安心・安全な農作物を消費者に届けたい」と全作目で環境こだわり農産物の認証を受けられている他、水稲では紙マルチを利用した無農薬栽培にも取り組まれています。「平成25年度秋の詩食味コンクール」では見事、優秀賞を受賞されました。

西澤さんは「地域に信頼される農業者でありたい」と、地元の集落営農や個人農家との連携を特に重視されています。多賀町における貴重な若手担い手農家として、今後の活躍が期待されます。



暑い夏でも品質抜群 滋賀県生まれの新水稻「みずかがみ」の魅力

今年から、いよいよ「みずかがみ」の栽培が本格的に始まります。すでに栽培研修会や量販店での販売イベントなどをご存知の方も多いとは思いますが、「みずかがみ」の魅力を再確認してみましょう。

魅力1. 「みずかがみ」はすべて環境こだわり栽培！

→生産者にも消費者にも優しい。

魅力2. 炊きたてはもちろんのこと、冷めてからもおいしい！

→お弁当やおにぎりにも向いています。

魅力3. 記録的な暑さだった25年産でも1等米比率は約88%！

→一方コシヒカリは62%、キヌヒカリは52%でした。

魅力4. 玄米はやや小粒だが、厚みがあるのでくず米が少ない！

→1. 9mmのライスグレーダーで調製してもあまり歩留りが低下しません。

魅力5. コシヒカリ、キヌヒカリと比べて3～4日成熟が早い！

→大規模農家の方は他の早生品種との作期分散も可能です。



ゆたかな水にかがやく実り
みずかがみ

品種名とキャッチフレーズは公募により選ばれ、統一デザインのロゴマークもできました。



販売用の精米袋はびわ湖をイメージした鮮やかな青色で、こだわりマークも印刷されています。

26年産は「みずかがみ栽培ほ場」と書かれた青色の看板が栽培ほ場の目印です。

「みずかがみ」を栽培される農家の方へのお願い

- ・環境こだわり栽培基準を守って栽培してください。
- ・全量種子更新し、自家採種はしないでください。
- ・種子や苗を第三者に譲渡しないでください。
- ・栽培ほ場には「みずかがみ」栽培ほ場の看板を設置してください。
- ・自家消費分を除く生産量の概ね全量を出荷し、個人販売はしないでください。
- ・初期の分けつが取れにくいので、基肥は不足しないように施用してください。
- ・食味低下につながりますので穂肥は遅れず、適量を散布してください。

農業排水対策への取り組み レーザーレベラーによるほ場の均平化

平成25年12月5日に、宇曾川水系の農業排水対策を進めるために、愛荘町西出において集落営農組織のリーダー、大規模農家や管内の関係機関担当者を対象にレーザーレベラーによるほ場均平作業実演会を開催しました。レーザーレベラーによるほ場の均平化は、除草効果の向上や生育の均一化を図る目的で、大規模農家や集落営農組織を中心に技術導入が進んでいます。また、農業排水対策の観点では、浅水での代かき作業が容易に行え、濁水を減らせることから水質改善の効果が期待できます。

今後は、このほ場で浅水代かき作業の実演会や均平効果の検証を行う予定です。



検討会の様子



レーザーレベラーによる作業風景

防ごう！ 刈払機による事故

刈払機による農作業中の事故は、乗用トラクターやコンバインなどの機械作業と並んで毎年多く発生しています。刈払機は草刈り作業を効率よく行うための必需品でもありますが、一方で使い方や作業方法が適切でないと大きな事故につながりかねません。今一度、正しい使い方を認識して事故防止に努めましょう。

濁水防止：琵琶湖へ泥水を流さないため、 春作業にむけて、いま一度確認ください

- ①水を入れる前に、あぜ塗り機で畦畔をあぜ塗りする
- ②あぜ塗り後に、あぜ際をトラクタ後輪で踏みしめる
- ③水を入れる前に、尻水戸を土でふさぐ
- ④排水路に水が漏れていないか確認する
- ⑤浅水代かき（土が見える割合70～80％）のため、必要以上に水を入れたい
- ⑥最初の代かき作業は、周囲からいぬいに行う
- ⑦田植え前などに、強制落水は絶対にしない



○刈払機事故の原因の半数は「不安定な姿勢」での作業。

刈払機による農作業事故のうち、およそ半数は「不安定な姿勢」での作業が原因です。急な斜面はもちろんのこと、緩い斜面でも露にぬれた草の上は足元が滑りやすいので、姿勢の保てない場所では使わないようにしましょう。また、草の中に障害物がある場合には目印を立てる、石や空き缶は除去するなど、作業前にあらかじめ確認を行いましょう。

○「ちょっとだけだから」はとても危険！

作業の時間や量にかかわらず、安全対策は十分に。「ちょっとだけ」の作業でも、保護メガネ、安全靴、作業手袋の装着、点検時のエンジンストップ、周囲に人がいないかの確認を必ず行いましょう。